

二〇一七年一〇月二七日

枯蓮の折線グラフめきにけり
草紅葉貼り付く雨の石畳
大輪の菊直立す家敷門
小鳥来るオープンカフェは川の上
深々と星なき夜の虫の闇

さつき
ぽんこ
智恵子
菜々
みどり

二〇一七年一〇月二六日

残る虫砲台跡の草葎
粃を焼く煙おちこち千枚田
蒼天へもみづるポプラ並木かな
千手もて秋天支ふ楠大樹

せいじ
智恵子
みどり
はく子

二〇一七年一〇月二五日

甘藷掘り赤白帽子賑はひて
蓑虫の梢は剪らず庭手入れ

満天
せいじ

二〇一七年一〇月二四日

今年酒試飲に笑ひ上戸かな
峡の日の照り翳りなす紅葉狩
教会のオルガン洩る落葉道
掌にころげ落ちたる零余子かな
玉砂利に紛れてここだ木の実落つ
台風圏脱したる庭大事なし

なつき
宏虎
智恵子
みどり
明日香
こすもす

二〇一七年一〇月二三日

下駄鳴らしつつ露天湯へもみじ宿
ビル街の窓から窓へ秋の雲
とりどりの色葉が埋む用水路
雨暗き森の小径のななかまど

智恵子
明日香
満天
ぽんこ

二〇一七年一〇月二二日

きのこ展一目で毒と分かる紅
新米の最初の客と宿あるじ
幾たびも警報メール台風裡
杜鵑草みて絞り染思ふ
茶の花の蕊の重しと俯きぬ

うつぎ
恵三
やよい
ぽんこ
たか子

二〇一七年一〇月二二日

秋袷形見の裾を繕ひぬ
針仕事夜寒の指を突くばかり
小鳥来る榎大樹の一里塚
軒並みに金木犀の匂ふ路地
日を浴びて呵呵大笑の破れ柘榴

よう子
やよい
なつき
そうけい
そうけい

毎日句会みのる選・二〇一七年一〇月二九日